

～低圧進相コンデンサから出火した事例～

「はじめに」

例年、低圧進相コンデンサから出火した火災が発生しております。特に保安装置が設けられていない1975年(昭和50年)以前に製造されたものからの出火が多くみられております。

平成30年については7月～9月にかけて5件の火災が発生し、平成31年あつては、8月7日現在、すでに2件の火災が発生しています。

低圧進相コンデンサは200Vの業務用冷蔵庫やモータ等を使用する電気機器の力率を改善し、電力を効率よく使用するための機器として、店舗や作業場等で使用されています。そのため、劣化や故障が分かりにくく、電圧がかかっていれば、電気機器が稼働していない時、その場に人がいない時でも出火する危険性があります。

「火災の概要」

これらの火災は一般住宅、作業場の分電盤内の低圧進相コンデンサから出火した火災です。



低圧進相コンデンサ

「出火原因」

出火したコンデンサは40年以上にわたり、使用していたことにより、コンデンサ内部の素子が絶縁破壊され、発熱し出火に至ったものです。

「予防対策」

- 1 機器を使用していないときは、メインブレーカを切るなどし、電圧がかからないようにしましょう（機器を使用していなくても、電圧がかかっていれば出火する可能性があります。）
- 2 1975年(昭和50年)以前に製造されたものの多くは安全装置が付いておらず、火災が拡大する可能性があります。早めに交換しましょう。
- 3 交換推奨期間は10年となっています。定期的に点検、交換しましょう。

火災を発見された方は、すみやかに119番へ通報してください。